



TOP NEWS

常勤理事らが認定農業者を訪問

農家の声をJA経営に反映

JAからつは常勤理事自らが管内の認定農業者を訪問し、JAへの要望を尋ねる取り組みを始めました。常勤理事が手分けし、管内の認定農業者868人を訪ね、JA自己改革の進捗状況を説明します。アンケートも行い、JAに対する要望を聞き集め、今後の自己改革や経営に反映させます。

当JAでは、農協法改正に伴う自己改革の行動計画の中に、組合員に対するJAの存在感の向上の一つとして認定農業者との率直な意見交換に取り組むことを掲げています。

1件当たり30〜40分程度かけ、17年度から3ヶ年の中期計画を説明。米独自直販方式の拡大、ハウスみかん省エネ策、集落

営農の推進など、実践策を伝えた上でJAに対する要望を聞き取りました。

個別訪問を受けた、浜玉町でハウスみかんやデコポンを2・8畝経営する大場将夫さん(60)は「役員と意見交換できる良い機会。直接話すことで思いを伝えやすい」と話します。

堤組合長は「農業者の真の声を聞くことができる。農業者の声をJA経営に反映するため、対話を続けていく」と強調しました。

1件当たり30〜40分程度かけ、17年度から3ヶ年の中期計画を説明。米独自直販方式の拡大、ハウスみかん省エネ策、集落



▲堤組合長自らバイクに乗車し、説明に回る